

コロナ禍の札幌演劇

sapporo education and culture hall news

Raku



の緊急事態宣言が出て、公演が中止や延期になつた当時の気持ちなど教えてください。

**小島** 当時、共同プロデュースをした『虹と雪、慟哭のカッコウ～SAPPORO '72』をクリエイティブスタジオで上演していました。ですが、緊急事態宣言が出て土日に予定していた3公演を中止しました。ただELEVEN NINESは活動源としてチケット収入がほとんどなので、客席数を減らす影響も大きかったです。感染者数が増えた時期は、お客様もやはり離れてしまつて、どれぐらいで完全に戻るのかなという不安もあります。コロナには翻弄されまくりですが、とは言え、止めずにやつてこられたなとは思います。

**南参** 僕も3月上旬に予定していた『14歳の国』を公演直前になつて中止しました。緊急事態宣言が出てからも、出演者の意思を確認しながら上演する方向で進めていたのですが、会場からNGが出てしまつて。代わりの会場も見つけたけれど、出演者の考えもバラけてしまつて、気持ちが揃わない限りは無理だなと。会議で中止を決めたときは「しようがない」と思えたけど、翌朝号泣しました。「生み出す直前まで来て、なんでおろさなきやいけないんだ」って、ただただ悔しくてやるせなかつたです。8月の札幌演劇シーズンは実施されて『ヘリクツイレブン』を上演しましたが、当時はまだ上演で

きているところも少なかつたし、初日を迎えるまで緊張の連続でした。

**佐久間** 自分は主宰者や制作者のお二人とは立場が違うので、受け止め方も少し違う部分があつたと思います。当時は東京の大学に通つていて春から4年生というときで、正直演劇よりも、コロナの影響で大学生活の最後の1年間が失われてしまう心配の方が大きかったです。学生寮が閉鎖されたので札幌に戻り、弦巻楽団の8月公演のお手伝いをすることになったのですが、公演期間中にスタッフの同居人が濃厚接触者の可能性があると報告を受け、劇場と協議した結果2ステージ中止になりました。その判断に対して一部のお客様からは「やりすぎ」という指

札幌を拠点に活動する演技至上主義集団。演劇でしか表現できないものの、ライブならではのエンターテインメント性を追求しつつ、質の良い作品を生み出している。CMやドラマ、映画などへも活動の場を広げ、道内のTV局が制作する番組に企画から携わる等の活動も行う。オリジナル作品の他、海外戯曲や近代日本戯曲にも取り組み、「12人の怒れる男(レジナルド・ローズ)」「あっちこっち佐藤さん(レイクニー原作)」などは高い評価を受けています。札幌演劇界を牽引する劇団のひとつと言われる。近年は北海道演劇財団や札幌座との共同制作公演も行なう。2021年TGR札幌劇場祭にて『ひかりごけ』が大賞を受賞。



### コロナ禍で明確になつた 演劇への関わり方

——教文でも10月以降は人数制限や感染対策※1を行つた上で公演を実施しました。以前は考えられなかつた状況下での準備や上演を行う必要がありますし、感染状況の変化によつては中止・延期の可能性も排除できない中で、モチベーションはどう保ちましたか？

**小島** 負けたくないという使命感があつたのかな。若い人々はスタッフも含め



### コロナ禍で明確になつた 演劇への関わり方

——教文でも10月以降は人数制限や感染対策※1を行つた上で公演を実施しました。以前は考えられなかつた状況下での準備や上演を行う必要がありまますし、感染状況の変化によつては中止・延期の可能性も排除できない中で、モチベーションはどう保ちましたか？

**小島** 負けたくないという使命感があつたのかな。若い人々はスタッフも含め

が浮き彫りにした側面もあるのかなと

摘も受けたのですが、当時の状況としては仕方ない判断だったと思います。公演は途中から再開できたのですが、劇団代表が公演中止に関わるさまざまな事務手続きをほぼ一人で抱え込んでいるような状態に見えて。この出来事を経て、自分がこの劇団に貢献できることがあるかもしれないと思い、劇団員になろうと決めました。

**小島** 当時は演劇シーズンを何とかやってほしいと思っていたし、やると言つてるyhs頑張れって思つていたし、弦巻楽団の中止のこと、そういう場合はどうするんだろうという話になりました。クラスターを札幌の劇場から出さないという意識のもと、他の劇団の対応の仕方を参考にするなど、それまで交流のなかつた劇団同士がコロナを通じて意識し合つていた感じはありましたよね。演劇シーズンが無事に終わつたことを本当に喜びました。

——教文でも10月以降は人数制限や感染対策※1を行つた上で公演を実施しました。以前は考えられなかつた状況下での準備や上演を行う必要がありますし、感染状況の変化によつては中止・延期の可能性も排除できない中で、モチベーションはどう保ちましたか？

**小島** 負けたくないという使命感があつたのかな。若い人々はスタッフも含め

が浮き彫りにした側面もあるのかなと

わつたかなと思います。

——現場を積んで成長していくので、その現場が丸2年ないという状況だと下が育つてこないんですね。でも学生劇団は大学の方針もあるから、如実に公演ができるなくなつていて。その意味でせて大人がやり続けることで「演劇の火を消さないぞ」という感じでした。

**南参** 当時の科学的な見識で公演に関しては安全にできるはずなのに、「何となく危なそうだからやめとこう」という情緒に流されるのは嫌でした。中止になつて号泣するほど演劇が好きだと気づいたし、なくしたくないという思いがあつて。なので『ヘリクツイレブン』も2020年秋に大阪公演をして、2021年は第5波の中、一人芝居フェスティバルのツアーで東京、大阪とざぶざぶ行きました。

Zoom演劇や配信も多少はやつたけど、自分がやりたいのはそれじゃないなつて。生の舞台でお客さんが目の前にいて、そこで何か起つたものをやりたいんだとはつくりしたので、何とかしてそれを続けたいというのがモチベーションでした。

**佐久間** コロナ禍でも、演劇を作るといふ意味ではモチベーションは変わりませんでしたが、最初から無観客と決まつて、いる公演に客演したときは難しさを感じました。稽古をしていくうちに、自分のモチベーションとして一番にあるのは「自分が素敵だと思う作品を、お客様と一緒に共有したい」ということだと気づいたんです。無観客でも配信を觀てくれた人とSNS上での交流はあつたけど、自分がやりたいのはそれじゃない、劇場でお客さんと空気を共有することが好きなんだと気づきました。

——コロナをきっかけに広く浸透した助成金申請や配信等、演劇活動をする上で結果として進化した部分はあつたと思いますか？

**南参** 自分たちは運良く公演をできただけで、稽古場をシェアしている演劇公社ライトマンは公演が一度も延期になるなど、ずっとできていない団体もあって。文化庁の「ARTS for the future!」という補助金の募集をしていたので、自分たちの公演プラス、活動が止まつている若手団体の公演もプロデュースする「Re:Boost Age」というプロジェクトを立ち上げました。ライトマンと演劇家族スイートホームに声をかけて、金銭的な部分以外にも、稽古に関するアドバイスなど多少できただけではと思ひます。あと助成金に関しては、コロナ前から申請書の書き方はもちろん、申請していいのかどうかわからないうといふ演劇人をサポートして回つていだんです。コロナを経て良かつたのは、演劇や芸術に関わる自分の立ち位置がはつきりしたことだと思う。申請していい立場なのか迷う演劇人に対して「別にそれでいい」という演劇人をサポートして回つていだんです。コロナを経て良かつたのは、自分が素敵だと思う作品を、お客様と一緒に共有したい」ということだと気づいたんです。自信を持つて言えるのであれば、そういうものなんだよって、ある程度の人には伝わつたかなと思います。

**佐久間** 演劇との向き合い方や距離感を考え直す機会にはなりました。ただ、自分たちがどう演劇に関わつていくのかはコロナの流行に關係なく考えないといけなかつたことで、元からあつた問題をコロ

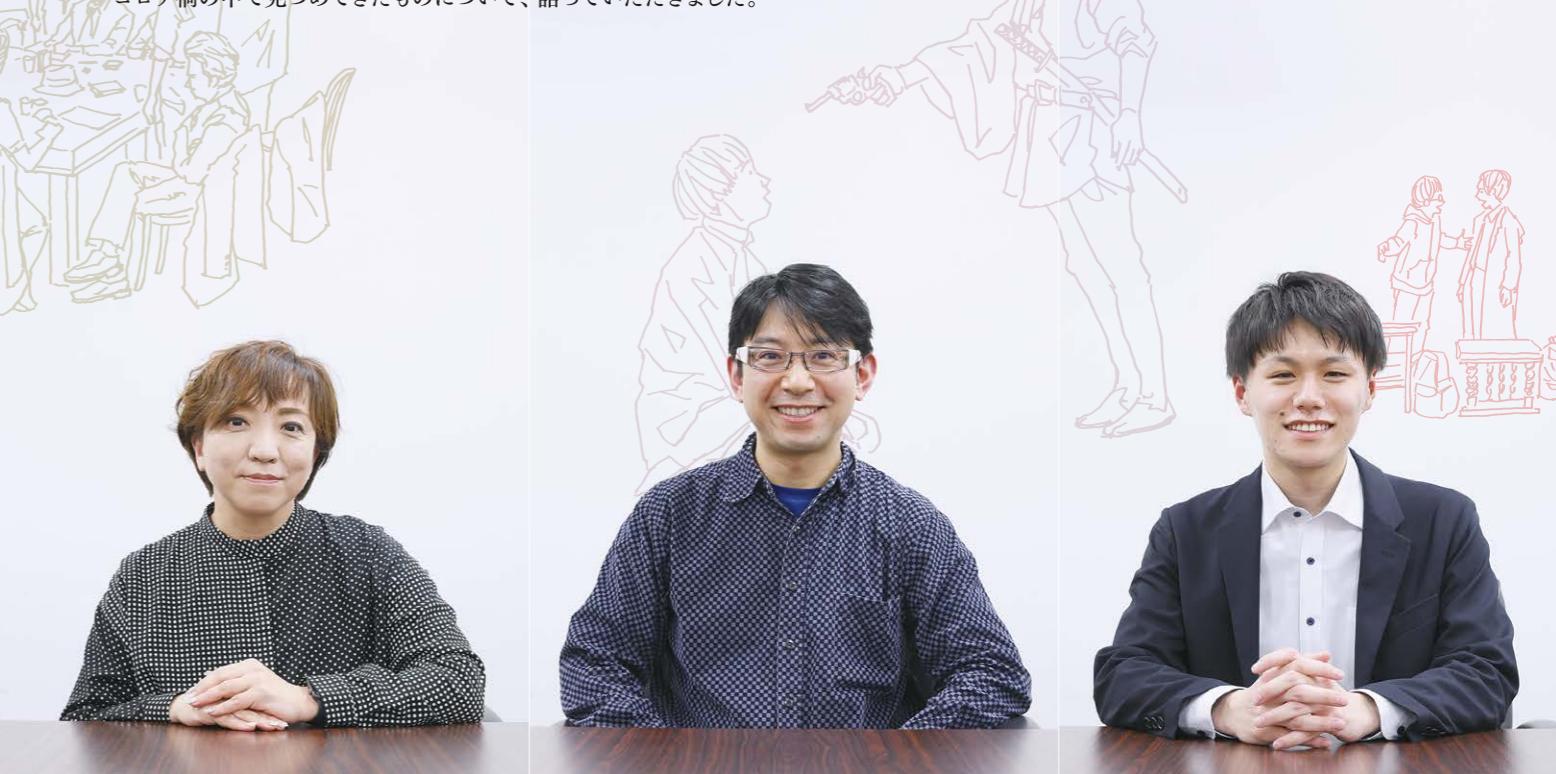


\*1) 楽53号「安心・安全に観劇を楽しめる教文の取り組み」より。

## [特集]

# コロナ禍の札幌演劇

この2年間、新型コロナウイルス感染症の感染状況は刻々と変化し、さまざまな文化芸術活動が影響を受けてきました。札幌の演劇シーンが経験してきたこと、そしてこれからのことについて描くべく、演劇の企画制作を手がける「tatt」代表でELEVEN NINESに所属する小島達子さん、yhs主宰の南参さん、弦巻楽団の佐久間泉真さんによる座談会を実施。立場も世代も異なる3名がコロナ禍の中で見つめてきたものについて、語っていただきました。



小島達子

ELEVEN NINES

劇団イナダ組を経て、現在はELEVEN NINES所属。株式会社tatt代表。役者・演出・プロデューサーとして活動。TV、ナレーション等の出演も多数。

南参

yhs

yhs代表。脚本家・演出家。笑いにこだわりつつ、様々なスタイルの演劇作品を生み出す。小・中・高校生への演劇ワークショップ講師も多く務める。

佐久間泉真

弦巻楽団

弦巻楽団所属。中学校で演劇部に入部したこときっかけで演劇を始め、2017年からは札幌の演劇情報を発信するWEBメディア・d-SAPの運営を行なう。

思っています。

**小島** 私たちは助成金に対する知識がそこまでなかつたので、コロナをきっかけにいろいろと勉強させていただいてるのは良かったと思う。補助金を活用していくという意識は高くなりました。

## Withコロナの時代の演劇。 変わるもの、変わらないもの

配信についてはどうですか？

**小島** 2020年9月に上演した『名もなく貧しく美しくもなく』はアーカイブ配信をしました。カメラを3台使ってスタッフさんを入れて、気合いを入れて配信したのですが、意外と視聴数が伸びなくて。それがショックすぎてその後の公演は配信していないのですが、この状況で来ることのできない遠方からのお客さんなどに向けて必要だとは思っています。



yhs

1997年、代表・脚本家・演出家の南参を中心に札幌で結成。さまざまな社会現象をシニカルな観点で捉え、問題点や矛盾点を巧みな笑いによって浮かび上がらせる脚本と、プレイヤーと呼ぶ俳優たちの個性を前面に押し出し、「人間」を強く浮かび上がらせる演出得意としている。オリジナル作品の他、近年は歌舞伎狂言やチャーホフなどの古典作品をベースにした作品創作も多く行っている。常に様々なスタイルを模索しつつ、あくまで力強いエンターテイメントとしての舞台作品を創り続け、北海道内外から高い評価を受けている。



**佐久間** 教文でも今後配信環境を整えながら、生の観劇の代替手段にとどまらない映像配信のあり方を探っていきたいと考えています（※2）。人の接触を避けなければならぬ感染症と、人がその場にいることが必要となる演劇とが、共存可能な道はあると思いますか？

**佐久間** リスクがある限り共存と言えないとしたら難しいですよね…。でも、減ってもどこかで誰かがやり続けると思いますし、弦巻楽団としても続けていくので、続けることを共存と言えるならば

**小島** 東京に出ていく若い子はいっぱい

**佐久間** うですが、演劇に対しての思いや今後力を入れたいことなど教えてください。

**佐久間** コロナがあろうとなからうと、面白い作品をお客さんに見てほしいという思いは変わりません。弦巻楽団が演劇研究講座のミッションとして掲げる「演劇を全くやったことのない人の最初の一歩として、習い事として気軽に生活に演劇を加える」という考えにも共感するので、ますます力を入れ取り組んでいきたいです。自分自身でもこれだと思えるミッションを見つけたら、何か立ち上げるかもしれません。

**南参** この2年で思ったのは、とにかく樂しいことをやりたいということ。あと教文の子ども演劇ワークショップ（※3）に参加した娘が演劇をやりたいらしくて、娘のためにも演劇をなくすわけにはいかない。将来どこの劇団にも入れなかつたら、最悪俺が脚本演出で娘の一人芝居をやるしかない（笑）。そんな感じで楽しくできることをやっていく感じかな。

**小島** 東京に出ていく若い子はいっぱい

す。記録の仕方も含めて勉強しながら考

えていきたいです。

**南参** 僕らはコロナ前から「観劇三昧」という演劇動画配信サービスで配信をしていましたので、アレルギーがあつたわけでもないんですけど、生の観劇だと自分の目

が勝手にパンしたりズームしたりして観たい部分を観ることができるので、配信多すぎで、費用対効果としては慎重に見極めないとと思います。

だとそれができないですね。競合相手が勝手にパンしたりズームしたりして観たい部分を観ることができるので、配信多すぎで、費用対効果としては慎重に見極めないとと思います。

可能だと思います。

**南参** 何百年というスパンで考えれば、ベストもスペイン風邪もあつたけど演劇がなくなつたわけではないので、何らか

あつたり、学生劇団の引き継ぎができるのかつたり、空白期間が出てきているので、あと演劇の形態が、Zoom演劇のよう短いスパンで考えると大変だとは思いま

す。2年以上公演をできない地域があつたり、学生劇団の引き継ぎができるのかつたり、空白期間が出てきているので、あと演劇の形態が、Zoom演劇のよう短いスパンで考えると大変だとは思いま



## 弦巻楽団

2003年に脚本家、演出家の弦巻啓太が「様々な演劇人ととのコラボレーションの場」として設立。わかりやすい語り口と奥深い洞察を兼ね備えた内容で、札幌演劇界で独特の地位と支持を得ている。札幌以外での公演も活発に行い、道内外での上演や近年は中学・高校への芸能鑑賞とともに各地へ招聘され、海外公演も行う。代表の弦巻啓太は作・演出家としてだけではなく、20代の頃から演技指導者としても活動。道内各地のワークショップやコミュニケーション教育の場でその方法論が注目され、精力的に活動している。劇団でも初心者や一般の方に向けて「演技講座」や「戯曲講座」を開講しており、優れた演劇の創造だけでなく、演劇文化の普及にも努めている。



いるけど、私は札幌で演劇をやつていいと思うって今もやつていい立場として、札幌の演劇に誇りがあるというか「札幌頑張ろよ」みたいな。お客さんはコロナで少し離れたけれど、ちょっととずつ戻つてきていますので、あとはもう良くなつていくことを祈る！年齢的にも、次につながっていくことを考えなくてはならないので、下の世代も育てつつ頑張ります！

**南参** 君の娘さんはELEVEN NINESに入っています！



※2) 楽54号特集「教文の未来」より。

※3) 公募により集まった小・中学生の参加者が、地元劇団の演出家や役者と共に一つの作品をつくりあげ発表公演を行う。2016～2018年は南参さん、2019年からはELEVEN NINESの納谷真大さんを講師に迎えて実施。2021年度の実施については中止。

## 教文演劇フェスティバル

KYOBUN  
THEATER  
FESTIVAL

教文短編演劇祭2019 優勝：空宇宙地「ショウアワセルフ」

<https://www.kyobun.org/enfes-official>

## 教文演劇フェスティバル 公式WEBサイトが 公開されます。

Official WEB Site

スマホはこちらからアクセスできます

## 教文演フェスの歴史を まとめました

### History

教文演劇フェスティバルは1980年代後半からスタートし、既に40年近くの歴史があります。もちろん、開催当初では短編演劇祭などではなく、今とは大きく異なるラインナップだったようです。どのように始まり、それからどんな歩みを辿って現在の形となったのでしょうか。あなたもその歴史を紐解いてみませんか？

## 短編演劇祭 フォトギャラリー

### Gallery

2008年から始まった短編演劇祭にはこれまでに数多くの劇団が出演してきました。20分という制限時間の中で優勝を目指してしのぎを削り、観客が審査員と共に投票を行い、その年の優勝劇団を決める演劇バトルは大きな盛り上がりを見せています。その白熱した様子をフォトギャラリーでお楽しみください。

2008年から始まった短編演劇祭にはこれまでに数多くの劇団が出演してきました。20分とい

うのためにも演劇をなくすわけにはいかな

いな。将来どこの劇団にも入れなかつたら、最悪俺が脚本演出で娘の一人芝居をや

れるしかない（笑）。そんな感じで楽しく

できることをやっていく感じかな。

東京に出ていく若い子はいっぱい

写真：折田写真

## 観たい！出たい！知りたい！が 満たせる情報発信

### News

新型コロナウイルス感染症拡大によって、2019年から開催中止が続いている教文演劇フェスティバル。現在も不透明な状態が続いておりますが、オンライン上でも楽しめるコンテンツを随時追加していきながら、最新情報をお伝えします。作品を観たいお客様、出演を希望する劇団、演フェスのことをもっと知りたい方…どんな方でも楽しめる内容を目指した公式WEBサイトを制作中。初回から現在において様々な変遷を辿る演フェスを改めて振り返り、情報の集約と発信する新たなプラットフォームをお楽しみに！

※2) 楽54号特集「教文の未来」より。

※3) 公募により集まった小・中学生の参加者が、地元劇団の演出家や役者と共に一つの作品をつくりあげ発表公演を行う。2016～2018年は南参さん、2019年からはELEVEN NINESの納谷真大さんを講師に迎えて実施。2021年度の実施については中止。

4 | RAKU



# 教文和文化巡り

## 第10回 | 日本茶にちげつ

伝統芸能とともに日本の文化の魅力を気軽に体感してもらう「和文化プロジェクト」。  
連載10回目は、日本茶にちげつをご紹介します。



### 日本茶にちげつ

札幌市中央区南2条東1丁目  
フラー札幌3F

tel.011-207-7758

営業時間／12:00～20:00

定休日／水曜・木曜

<https://www.facebook.com/nichigetu>

※茶室「創星庵」：貸出料は1時間700円。茶道教室のほか、句会や女子会など幅広い用途で利用されています。要予約。

全国から選りすぐった日本茶と京菓子職人による季節の生菓子を楽しめる日本茶専門カフェ。店主のあけたさんは、煎茶道のお稽古で淹れられた玉露の美味しさから日本茶の魅力に引き込まれ、日本茶インストラクターの資格を取得。2015年に席数5席の小さなカフェと、その隣にレンタル茶室(※)をオープンさせました。お茶リストには各地の煎茶、玉露、抹茶、焙じ茶などがズラリ。迷ったら、その日の生菓子に合うお茶を聞いてみるのもおすすめです。器を温め、茶葉を量り、温度を計ったお湯を急須に注いだら待ち1分間。一連の美しい所作を経て、お茶請けとともに差し出されるお茶をいたなく、なんとも心が穏やかに。お湯は何度でもいただけるので、二煎目、三煎目を楽しめたのです。嬉しいポイントです。「人に淹れてもうたお茶は美味しいですよね。急須で淹れた濃厚なお茶の美味しさを多くの人に伝えたいです」とあけたさん。開店以来、お客様が自然と仲良くなる姿を見て「お茶は人と人をつなぐ媒体」という思いを強くしたそうです。上階にある能教室の生徒さんが立ち寄ることもあり、能楽談義に花が咲くことも。和の時間をゆったり楽しみに、ぜひ足を運んでみて下さい。

お茶を介して人とつながる、街の縁側的カフェ

## SAPPORO ENGEKI no WA

伊藤 しょうこさんから指名

[プロフィール]

前田 透

Toru Maeda

札幌生まれ札幌育ち。劇団「木製ボイジャー 14号」の代表、ヒュー妻のメンバー。脚本、演出、俳優、劇中音楽制作などいろいろを札幌の小劇場でやっている。1991年生まれだが、ほとんどそう思われない見た目と声と態度が。スヌーピーが好き。



### 次回公演情報

○ヒュー妻：6月くらいにやりたい！

○劇団「木製ボイジャー 14号」：8月くらいにやりたい！

## 木製ボイジャー 14号

## 前田 透

書くのは些細な嘘が面白い会話劇。

演出で好きなのは集団創作スタイルです。

劇団「木製ボイジャー 14号」にて脚本、演出、役者、劇中音楽等を手がける代表の前田透さん。他団体での客演やスタッフ、楽曲提供、演劇ユニット「ヒュー妻」への参加、WS講師など、多彩な活動について伺いました。

— 演劇と関わるきっかけは？

高校の演劇部です。2年生の冬に以前顧問だった先生の追悼公演をすることになり、「座・れら」座長の鈴木喜三夫さんが演出してくれたご縁で、卒業後れらに入団しました。4年間活動したあと、2014年にボイジャーを旗揚げしました。

— 演劇と関わるきっかけは？

高校の演劇部です。2年生の冬に以前顧問だった先生の追悼公演をすることになり、「座・れら」座長の鈴木喜三夫さんが演出してくれたご縁で、卒業後れらに入団しました。4年間活動したあと、2014年にボイジャーを旗揚げしました。

— 「チーズ」は、独特な会話のリズムが印象的でした。

「無駄な話ばかりしていて、どうも問題を解決しようとしている風には見えない会話」が好きで。本音を素直に言えないと、いつうか、「わかった」って言って絶対わかっていないだろうなとか、「考えてみるわ」って言つていて考えてないとか人が日常的にする演技の瞬間を見ると面白いなと思います。そういう些細な嘘をたくさん書くのが好きです。

— 作演出・出演を兼ねることが多いと思いますが、演出だけを手がけたことは？

B.L.O.C.H.の取り組みで

2017年に上演した『トキハ

ナ』(原作:亀井健)だけですね

本と向き合いながら、亀井さん

のつくるお芝居のエネルギーを

— 今後追求したいことは？

学生さんなど若い演劇人との接点が最近なくなってしまったので、積極的に交流して作品と一緒にくりたいです。WSなどでもいろんな人と関わって、つくる面白さと一緒に発見して共有していくことを、コロナが落ち着いたら追求したいですね。

— どう立ち上げて盛り上げていけるか、初めての俳優さんたちと考えるのが楽しかったです。昨年ヒュー妻作品の演出(&出演)をしたのですが、谷村卓朗君の書く変な台本をどうつくり一番面白いのか、みんなで考えるのが楽しくて。演出としては、会話劇とは違う集団創作スタイルが好きです。

[撮影協力] 宮越屋珈琲ホールステアーズカフェ有楽ビル店